

令和元年度南予地方局予算の実施状況（R2. 2. 29 現在）

- 1 予算事項名 夏季販売仕向けかんきつ品質安定化事業費
- 2 事業期間 平成 29 年度～令和元年度
- 3 所 管 産業経済部産業振興課
- 4 事業概要

平成 25 年度に開始した長期鮮度保持技術を用いた清見、ブラッドオレンジの夏季販売普及定着の取組みは、一定の成果を上げたものの、貯蔵仕向けの果実数量・品質の不安定さによる販売数量の年次変動や貯蔵ロスの発生、夏季販売の認知度不足による販売価格の不安定さという課題が明らかとなった。そこで、清見、ブラッドオレンジ、河内晩柑の 3 品種について、生産者に対する意識啓発、夏季販売仕向けの生産安定・品質向上対策、PR 活動による認知度向上を図ることにより、かんきつの周年供給体制を強化し、「かんきつ王国」愛媛のブランド価値を向上させる。

	令和元年度
予算額	840 千円

5 事業実施状況

【夏季販売仕向け啓発活動】（予算額 91 千円）

清見・ブラッドオレンジ・河内晩柑の品種ごとの実証試験について、得られた成果等をフィードバックするために、5月20日（清見：西宇和農協三崎出張所 15 人）、9月26日（河内晩柑：JAえひめ南 20 人）の講習会で生産者に報告し、意識啓発や技術向上を図った。

【夏季販売仕向けかんきつの生産安定と品質向上】（予算額 538 千円）

生産安定・品質向上のための調査・実証試験を生産者の園地や貯蔵施設等で行う。

（1）清見の生産安定と貯蔵歩留まり向上対策

○土壌条件（pH 等）が結実に与える影響調査

土壌改良による品質向上・生産安定を目指すため、6月～2月まで土壌条件（石灰質資材の投入による pH の矯正）が果実品質に与える影響を調査したところ、糖度が上昇、酸度が低下する傾向が見られた。

○基本管理の徹底による貯蔵体質強化

長期貯蔵果実の品質安定を目指すため、3月14日～7月中旬まで貯蔵試験（低温貯蔵）を実施（写真1）。貯蔵試験は新資材と従来技術の2試験区で行ったところ、従来技術より新資材で貯蔵性向上、貯蔵臭の低減など品質向上が見られた。

（2）ブラッドオレンジの品質向上対策の検討

○基本管理が貯蔵体質に与える影響の調査

長期貯蔵果実のロス率の減少を目指すため、4月26日～7月末まで貯蔵試験（冷温貯蔵）を実施。貯蔵試験は4試験区で無処理区と3つの新資材で試験を行い（写真2）、結露防止機能のある資材が最もロス率が低かった。

○果肉異常果（す入り果）の発生が少ない系統の判別

収穫前の樹上選果で異常果を選別するために、通常の果実よりも異常果の硬度が高い傾向であることを用いて、チェックボールによる検証を行い、判別可能であることが分かった。今後は判別の精度を上げていく。

（3）河内晩柑の夏季出荷方法の検討

○樹成り完熟栽培（隔年交互結果）による夏季出荷の実証

樹成り完熟栽培の夏季出荷を目指すため、隔年交互結果が樹体内デンプン含量

に及ぼす影響について調査した。その結果、生産量の期待はできないものの樹勢維持や着花量の調整に効果はあったことが分かった。今後は連年安定生産に向けて、樹体ごとではなく、枝ごとで隔年交互結果による実証を行う。

(4) マニュアルの作成

品種ごとの成果をもとに夏季販売仕向けマニュアルを本年度内に作成し、来年度以降の講習会等を通じて、夏季販売仕向けかんきつの生産安定と品質向上を目指す。

【夏季販売の認知度向上】(予算額 211 千円)

営業本部及びブランド戦略課と連携し、南予産かんきつ夏季販売の消費宣伝等を支援する。

ブラッドオレンジ及び河内晩柑については、JA えひめ南が実施した「ブラッドオレンジ&宇和ゴールドフェア」(宇和島市内・5月11日)に参画及びPRを行い(写真4)、80千円を売り上げた。また「需要開拓商談会アグリワード EXPO 東京 2019」(8月21日、22日)でもPRを行った。河内晩柑については、百貨店(日吉東急アベニュー)でPR活動を行い、約600千円を売り上げた(写真5)。清見については、三崎共選が実施した総合スーパー(兵庫県西宮・6月1日)における「清見フェア」に参画及びPRを行い(写真6)、1日間で111千円を売り上げ、販促店舗が1か所から2か所に増加した。



写真1 (清見の貯蔵試験)



写真2 (ブラッドオレンジの貯蔵試験)



写真3 (収穫後の河内晩柑)



写真4 (ブラッドオレンジ & 宇和ゴールドフェア)



写真5 (百貨店での河内晩柑 PR)



写真6 (清見フェア)